

行政視察報告書

令和5年12月1日

長浜市議会議員 中川 勇 様

長浜市議会議員 竹本 直隆

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 会派新しい風行政視察研修
2. 視察期間 令和5年11月22日(水)～24日(金)
3. 視察場所及び目的
 - ①福島県会津若松市 ・ARを活用した観光施策について
 - ②宮城県仙台市 ・防災意識の醸成と対策について
 - ③③福島県福島市 ・福島県イノベーションコースト構想について

4. 調査内容感想等

・視察の目的

1. 会津若松市は長浜市とよく似た歴史と文化を持ち、人口規模も同じで、観光施策に大変力を入れている。観光客年間400万人を目標にコロナ禍で落ち込んだ観光客を戻すために、鉄道事業者とのマッチング、映画撮影のロケ地を図るフィルムコミッション事業、外国人観光客を迎える体制づくりなど、長浜市とよく似た環境の中で参考にすべき事例を視察目的とした。

2. 宮城県仙台市の荒浜小学校における津波襲来に対しての経過と対応について

3. 福島ロボットテストフィールド等拠点整備を含めた主要プロジェクトについて

・視察の内容

1. 会津若松市の観光施策の中で会津若松城を中心とした町並み形成をARを駆使して、

観光の充実を図られている。内用はスマホやVRゴーグルを使う事による臨場感や、音、時代考証の再認識が図られ、当時の時代にタイムスリップできるなど、まさに、長浜市の戦国ミュージアム構想にマッチしていると感じた。建物など多額の費用をかける事なく、さらに細かい部分まで再現できるなど、周遊しながら当時の状況を詳しく語ってもらうことができ、観光客にも好評であると説明されていた。費用もARだけに限れば1040万円と少ない額で収まっているようだった。

また、インバウンドの取り組みも年々増え、年間25000人の海外観光客を誘客することができるなど、ICTの活用が大きな力になっている。

さらに、滞在型観光を推進するために宿泊者限定の極上はしご酒プランが用意されていて、1000円で市内350件のお店でお酒と料理が楽しめる企画がなされ、大変好評ですとおっしゃっておられた。

2. 東日本大震災における荒浜小学校は被災したが、当時の校長の判断で、防災備品、食料品、児童の避難場所を体育館から校舎2階、及び3階に避難誘導をするなどの確かな判断により、児童全員が無事に避難できた日頃の防災意識、訓練はどのようなものか。

3. 東北大震災により、人口流出が顕著であり、新たな産業の創出を目指すために取り組まれたプロジェクトで、産業集積の実現、人材育成、生活環境の整備、交流人口の拡大等を図った事業で、ロボット、ドローン技術の活用を人口減少の進んでいる本市への活用ができないか視察した。

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

1. ICT を駆使しながら安価な費用での観光誘客は目を見張るものがあると感じた。会津若松城という観光資源を最大に利用しながら、付随している文化のマッチングは大いに参考になり、長浜市も豊富な歴史、文化遺産を有することから、会津若松市の観光施策を参考にすべきと思う。

2. 正確な情報の収集と的確な判断による避難誘導は日頃の訓練の賜物で、訓練は本格的なものだった。火災発生を想定した煙の中を歩く訓練や、災害によりけがをした場合の応急対応として、包帯や当て布の使い方を学ぶ機会などもあった。荒浜小学校の校舎では、児童を保護者に引き渡す訓練もしていたという。

「荒浜小学校には、防火・防災意識の啓発を図るために結成された『少年消防クラブ(BFC)』があり、学校と地域が一体となるような地域合同防災訓練は、地域の防災意識が高まるきっかけになっている」と述べられているように、本市においても学校における避難訓練の必要性を感じた。

3. 人口減少のスピード化が進む国内において、人材不足に替わる妙案はなく、ロボットの活用についても高額な資金を要するなど、このプロジェクトは震災地域に特化した、企業誘致を目的としているため、参考にはならないように思えた。ただ、急速にロボットを活用すべき時代であり、ドローンなどは、農業、建設、観光など多岐にわたり使用できるので、先進技術の活用は学ぶべきであると認識した。今回視察したコンクリート形成のロボット化は、場所を選ばない工事、危険な現場でも人を使わない工事、型枠を使わない工事期間の短縮など、眼を見張るものはあった。